

団体名	埼玉大学						
事業名	国際共修「留学生と学びなおす環境問題対策プロジェクト～Part2」						
実施期間	2021年11月6日(土)						
場 所	埼玉大学						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	12		15		12	5	44名

<実施内容>

11月6日(土)、埼玉県内在住・在学の外国人留学生12名と日本人学生15名が、「埼玉」をより良く知るための「埼玉学のすすめ」スタディツアーに参加しました。

本年度のテーマは「環境問題Part2:フードロス」。当日は埼玉県資源循環推進課の豊田氏、株式会社クリタエムデリカ代表取締役社長 栗田氏、埼玉県寄居町で有機農家をされている横田氏お迎えし、埼玉県内の食品ロスの現状と削減に向けた取り組みや、環境に考慮して食べ物を生産することについて、講義とディスカッション、野菜の種の植付体験を通し学びました。ディスカッションでは、各自が自分の国のフードロスや食べ物に対する考え方を共有し、違いや共通点に驚きました。また、ツアーの最後には、一人ひとりが今日から食品ロス削減の為に「アクション」を設定しました。

事前オリエンテーションでは、日本人学生が用意したアイスブレイクのゲームを楽しみ、ツアー当日にはお互い打ち解けた雰囲気の中で開催することができました。

<記録写真>



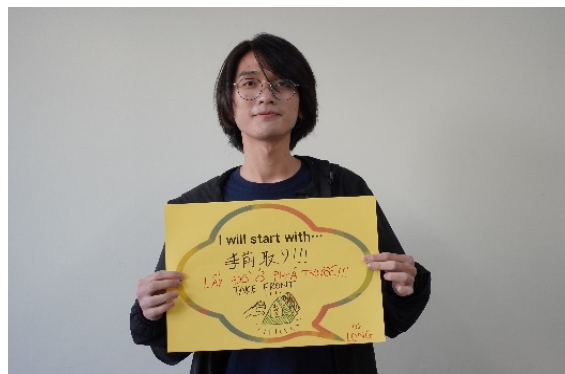
有機農家の横田氏を囲んで。



小松菜とかぶの種の植付体験
(安留さんとチームの皆さん)



日本人学生が留学生の通訳サポート



一人ひとりがフードロス削減の「アクション」を決めました。(Longさん)

<参加者からのコメント>

安留 尚弥さん(日本)/Naoya Yasutome(Japan)

事前オリエンテーションでは初めに自己紹介、次にお絵描きゲームをしました。オンラインでゲームできる「ラウンジ」を併用しなるべく段取りを円滑に進められたので少ない時間でも濃密な異文化交流の時間を味わうことができました。また、コロナ禍で学校に通えない学生さんもいる中、一人一人が言語の壁を越えてお互いに協力し楽しんでいる姿に感動しました。スタディツアーでは「食品ロス」や「こども食堂」の現状や対策案についてのディスカッションを行いました。それぞれのメンバーが事前に準備した意見を短い時間で交わせたため、たくさんの情報をインプットとアウトプットでき、有意義に学習できました。12月中旬にもオンラインではありますが、今回のスタディツアーで植えた小松菜と小かぶの成長状況を報告し合い、ゲームも新たに行う予定です。連絡し合う際には英語をフルに発揮できるため、将来IT化の進む時代だからこそこちらも良い機会であると感じました。本日は本当にお世話になりました。ありがとうございました。

ゲン ホアン ロンさん(ベトナム)/NGUYEN HOANG LONG (Viet Nam)

尚美学園大学のゲンホアンロンです。今年の「食品ロス削減」のスタディツアーはとても楽しかったです。ツアー前のオンラインオリエンテーションも楽しかったです。話を視聴した後、食品ロスの原因や現在の食品ロスの状況が理解し、さらにほかの学生とディスカッションし、たくさんの意見があって、勉強になりました。次は株式会社クリタエムデリカの製造と取り組みを視聴して、すごく感動して、印象が残りました。最後は自分で種を植えて、自分で育てるのもとても面白いです。やったことはないですけども頑張って育てる。今回の活動は知識だけではなく、いろんな国の学生さんと会話できて、本当に貴重な経験でした。これからもこのような交流活動を積極的に参加していきたいと思っています。今回参加させてもらって、ありがとうございました。